

とうかつ 普及だより

第31号

<http://www.pref.chiba.lg.jp/apcenter/toukatsu/>

平成24年2月発行

発行：千葉県東葛飾農業事務所

改良普及課

東葛飾農林業振興普及協議会

住所：柏市柏 255-1

電話 04-7162-6151

FAX 04-7162-6154

小松菜が つなぐ 地域の農業、商工業と都市住民

（西船橋地域の小松菜産地におけるブランド下化への取り組み）

市場価格の低迷による販売額の減少、農産物の安全性と産地への信頼の確保、生産に伴う地域住民とのあつれきの解消などは、東葛飾の農業共通の課題です。

これらの課題の解決に向けて、船橋市西船橋地区のJAちば東葛西船橋葉物共販組合（平成6年設立、組合員16戸）では、平成19年度から特産である小松菜のブランド化に取り組み、①安全・安心な小松菜の周年安定生産、②ブラン

ドの地元定着に向けたPR活動の実施、③地元商工業者や学校給食等地域との連携による販路拡大などを行ってきました。

まずは、「エコファーマー」、
「船橋産」等の文字を印字した結束テープを作成し、当組合の小松菜であることがわかるようにするとともに、市内外の様々なイベントに組合員が自ら参加してPR活動を継続的に行なってきました。

また、地域内の人脈を活かして地元商工業者へ小松菜料理メニューや商品の開発を依頼し、取扱店や品数も年々拡大しています。平成23年からは取扱店やその商品をPRすることを通じて「西船橋の小松菜」を広く発信するため、「小松菜の日（5月27日）」にちなんでイベントを開催しています。

5月21日には「西船橋小松菜博覧会2011」を開催し、500名を超える来場者が小松菜や小松菜パウダーを使った料理メニューの



試食販売を楽しみました。農業関係者だけでなく商工業者も巻き込んだ取り組みも拡大しブランドの定着も進んでいます。

さらに、市内学校栄養士との連携により給食への取り扱いも定着してきており、小学校へのゲストティーチャー派遣活動等による食育活動も積極的に実施しています。このように、地元にあらかじめ目を向けて活動することにより、「西船橋の小松菜」は市民に愛される地域ブランドへ育っています。詳しくは組合HPを参照ください。

<http://komatsuna.info/>

話し合いが課題解決の第一歩！
〜経営改善研修会の開催〜

農業経営体育成セミナー生、
とうかつ女性ネットワークや指
導農業士、関係機関等を対象と
して平成23年11月8日(火)家
族経営協定推進を目的とした経
営改善研修会を開催いたしました。

講師の福島県二本松市(旧東和町)武藤一夫氏からは、自身の具体的な協定内容を示しながら、協定を「人生を楽しく生きるための約束事」として捉え、締結後も経営・生活環境の変化に対応するため「話し合い」と「見直し」の重要性について講演されました。また、管内の協定締結者から、経営転換時期の協定の活用事例も発表されました。参加者(41名)からは、締結に至るまでの具体的な内容・事例を

聞くことで経営改善方法としての協定の有効性を理解できました。

講義後には、少人数に分かれたワークショップ形式で、「我が家の経営ここを変えたい」をテーマに、参加者の家族内での課題を出し合い、その改善点を検討し、結果を発表しました。課題解決の第一は「家族内の話し合い」で、若手が自分から「声掛け」を日常生活の中でしているというアイデアが出されました。

この研修結果を生かし、それぞれの経営の中で「話し合い」協定締結」を実践できるように当農業事務所として支援していきます。



ワークショップで、アイデアを発表した参加者がセミナー



米粉のこともっと知りたい！
〜起業家研修会開催〜

消費者の多い東葛飾地域では、直売所が農産物の重要な販売拠点であり、特に加工品の需要が高まっています。そこで農業事務所では、研修等を通じて、農業者の加工起業の推進とレベルアップを図っています。

平成23年12月16日、米粉の特性理解と、加工技術の習得、及び今後の商品開発の活性化に資するため、起業家研修会を開催し、24名が参加しました。

講師として、全国各地で米粉の普及に尽力されている萩田敏氏(こっけん料理研究所長)をお招きし、「米粉の種類と加工適性」について講義していただきました。実習は7班に分かれ、基本の米粉パンとその応用編を数種類作りました。また、特産

物の枝豆や小カブなどの野菜をたっぷり使ったピザとグラタン、簡単にできる炊飯器調理パンも作りました。

参加者達は、「米粉の加工品を消費者にもっと食べてもらいたい」「簡単な調理を覚えたい」で、気軽に使っていきたい」「商品開発の参考になった」などの感想が伺えました。今後、東葛飾地域でも、米粉の利活用が促進されることが期待されます。

当農業事務所では、今後も農業者の起業活動を支援していきます。



多くの力作が誕生しました

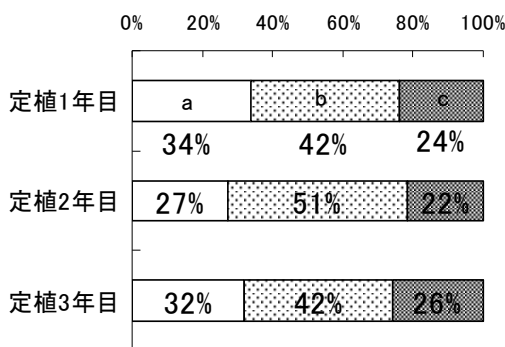
梨の苗木栽培管理（かん水・施肥・新梢管理）に関するアンケート結果について

本年度農業事務所では管内を中心に127名の生産者に対し苗木の栽培管理に関するアンケートを実施し、苗木育成における課題を調査しました。以下に結果の一部とそのとりまとめをご紹介します。（データは回答者のみの結果を集計）

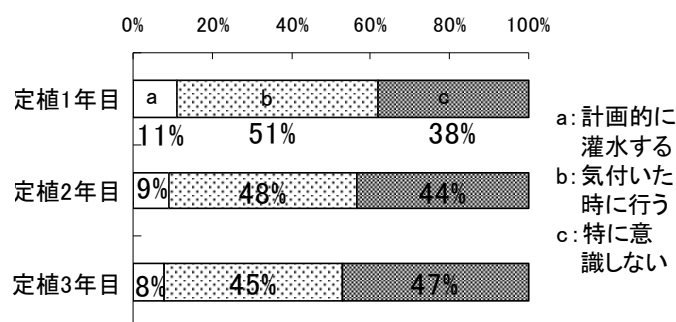
●アンケート結果まとめ

- ・定植1～3年目の苗木に対し、施肥は十分行っているが、かん水に対する意識は不十分である（問1及び2）。
- ・主枝を高くし、固定する管理は十分実施されている（問3及び4）。
- ・側枝候補を確保しながら、樹冠の拡大が行われていた（問5）。
- ・回答者の約7割が苗木育成において何らかの課題があると回答していた（問6、データ省略）。主枝先端の伸びの悪さ、側枝候補の確保に課題があるとしている回答者が多かった（問6）。

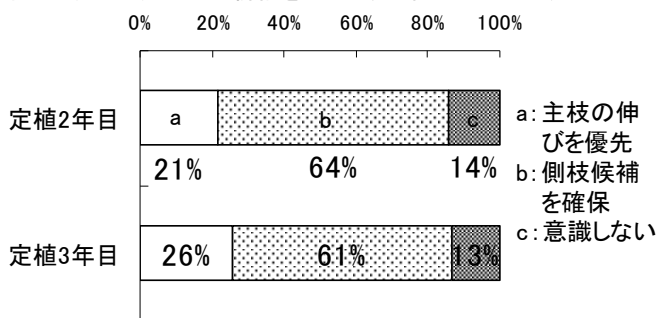
問2 施肥を計画的に行っていますか？



問1 かん水を計画的に行っていますか？



問5 主枝から発生した新梢をどのように管理していますか？



問3 主枝先を高くしていますか？

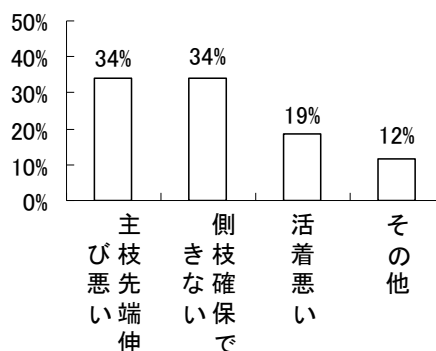
	一番高くしている	意識しない
定植2年目	89%	11%
定植3年目	86%	14%

問4 主枝先の新梢を固定(誘引)していますか？

	固定している	固定してない
定植1年目	75%	25%
定植2年目	71%	29%
定植3年目	74%	26%

当農業事務所では今後苗木管理（定植・剪定）についてもアンケートを実施し、改植・早期成園化推進の支援を行っていきます。

- 苗木育成を成功させるために
- ①苗木育成において、かん水は重要なポイントである。特に定植1年目は、その後の生育に大きな影響を与える。
 - ②定植後の3年間はこまめな管理が必要なので、経営全体を眺め、労力的に可能な範囲の本数を定植する。



問6 苗木育成の課題は何ですか？（重複回答有）

夏どり小かぶの品質・収量の向上を目指して
―被覆資材の試験導入―

東葛飾地域の中でも柏市は最も小かぶ栽培が盛んで、生産量は全国一位となっています。また、長年の栽培技術の研究や品種の改良により、現在はほぼ一年中出荷がされています。

しかし、近年夏どり栽培においてハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)の発生・被害が増加しており、品質・収量の低下が問題となっています。ハイマダラノメイガの幼虫は、アブラナ科作物の生長点付近の葉を綴り合わせて食害するため、幼植物に寄生すると成長が止まり、被害が大きくなります。

これまでに、ハイマダラノメイガは被覆資材による侵入防が高いことが明らかとなっています。そこで当事務所では、JAちば東葛およびJAちば東葛小かぶ研究会等の協力を得て、異なる目合の被覆資材を用いて小か

ぶを密閉トンネル栽培し、ハイマダラノメイガ総合防除の検証を実施しました。



密閉トンネル栽培(作業中)

調査結果から、最もハイマダラノメイガの被害が軽減されたのは0.40mm目合の密閉トンネル栽培であることが確認されました。

さらに、ワリフなどの不織布系資材に比べ、ネット資材は薬剤の透過性が良く、散布効果が期待できると考えられました。

また、実際に調査に協力して下さった農業者の方からは、「べたがけに比べてトンネル被覆は労力とコストが増加するが、ハイマダラノメイガによる被害軽減を考慮すると普及性はあると判断する」という意見も得られました。



ワリフのべたがけ栽培

次年度は引き続き検証を実施するとともに、効率的な薬剤防除と併せた総合防除体系を確立したいと考えています。

今後とも農業事務所では関係機関との協力の下、柏小かぶのブランド化推進のための支援を行ってまいります。



ガッチリ育苗で収量ガッツリ

水稻の収量構成要素の中で穂数が最初に決定します。育苗期は、天気が不安定で、出芽不良、かびによる病害・細菌性の病害・ムレ苗等の発生が心配されます。従って、種子の浸漬から催芽までの適切な管理や農薬消毒により病害を予防し、茎太の根の多いガッチリした苗を作りましょう。

種子および土壌消毒で病害予防を

育苗箱はきれいに水洗いし、日光に当ててよく乾かしておきます。

市販の育苗培土は加熱処理してありますが消毒はしてありません。

細菌性苗立枯病を予防するため覆土1リットル当たりカスミン粒剤15〜20g、又はフタバロンA粉剤5gを混ぜておきます。

未熟種子は病害の原因になります。塩水選を行い、これらを除去しておきます。塩水選後は良く水洗いし陰干しを行います。

種子消毒はヘルシードTフロアブル又はテクリードCフロアブルで消毒後、風通しの良いところで粗の表面が白くなるまで陰干します。浸種水温は10℃〜17℃とし、積算温度100℃（日数×平均温度）で行います。

最初3日間は消毒の一部と考え水

の交換は行わず、4日目からは毎日交換します。

厚まきは軟弱苗のもと

1箱あたり、は種量は乾もみで130〜150gの薄まきにします。薄まきは、病気が発生し難く、活着の良い苗が出来ます。

芽出しは発芽を揃えるために、幼芽長が1ミリ以内のハト胸状態にします。

水管理はていねいに

は種時に、たつぷり水やりをしましょう。その後は、表面が乾いたら午前中に水やりをし、夕方には乾き気味にします。培土が過湿になると根の伸びが悪くなり、カビが発生しやすくなります。

は種後の温度管理が肝心

発芽時の適温は28〜30℃です。30℃以上になると病気が発生し易く注意が必要です。夜間に5℃以下の低温にあうと根にダメージを与え「ムレ苗」が発生します。シートで保温した場合、昼間の温度が上がりやすいので特に注意が必要です。苗と同じ高さに温度計を置いて、温度管理を徹底しましょう。急激な温度変化を避け10℃〜25℃の管理が出来れば理想的です。

エコ栽培の育苗技術については当農業事務所にお問い合わせ下さい。

若い女性農業者が頑張っています！

〜さわやか女性セミナーの開催〜

次世代の農業の担い手として今後ますます活躍が期待されている、若い女性農業者の学習・交流活動の場として「さわやか女性セミナー」を開催しています。

20歳代からおおむね40歳代の女性を対象としており、平成23年度は、4回のセミナーを予定しています。

内容は、「パソコン実習」、「土作りについて」、「農業労働」などの農業技術関係の研修と共に、先輩女性農業者との交流や、セミナー生同士の農業や生活についての意見交換の場を作っています。

12月に開催した第3回セミナーでは、「私の農業と暮らしについて語ろう!」をテーマにワークショップ形式で意見交換を行い、「直売所へ漬物を出したい」、「加工品を作りたい」等の「起業」への希望や「効率的に働く工夫を考えた」など普段は漠然と考えていた

農業と暮らしの夢について、より具体的に考えることができました。（左写真：ワークショップ風景と、まとめた『私の夢』）



☆ さわやか女性セミナーは、受講生を常時募集しています。受講希望者は、改良普及課担当（藤澤・坂本・早崎）までお問い合わせください。



千葉県農業士等新規認証者の紹介
 平成23年11月17日(木)、千葉県庁において第35回認証式典が行われ、東葛飾地区からは農業士1名、指導農業士2名が認証されました。今後も地域農業のリーダーとして、また、担い手育成活動についてご活躍が期待されます。



指導農業士
 西川圭二さん(柏市)
 露地野菜経営



指導農業士
 石井基之さん(船橋市)
 施設+露地野菜経営



農業士
 鈴木等さん(野田市)
 施設+露地野菜経営

平成24年度

農業経営体育成セミナー生の募集

東葛飾農業事務所では、就農初年から数年までの農業後継者(概ね40歳以下)を対象に、早期の技術習得を目標に農業経営体育成セミナーを開催しています。平成23年度は、74名が受講しています。

この農業経営体育成セミナーは毎月1~2回程度、3年間の継続した研修を行い、農業経営に関する知識・技術の学習を行います。修了者からは、「セミナー受講生同士の交流や幅広い農業知識と専門的な知識が身につき、大変良かった」と好評です。

平成24年度農業経営体育成セミナーは、5月開講予定です。

4月以降新規受講者を募集します。

受講希望やお問い合わせは改良普及課へ。

また、お近くの受講希望者に是非、参加を勧めてください。



講義や先輩農家の圃場への視察等、様々な研修を行っています。